



始めよう！ アクティブ・ラーニング型授業 ー協同学習・図解の技法編ー

香川大学 大学教育基盤センター
中住 幸治

本講座の達成目標



1. 図解の技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
2. アクティブ・ラーニングとはどのようなものか説明することができる。
3. 自らの授業に図解の技法を取り入れることができる。

本講座の内容



1. アイスブレイク
2. 図解の技法紹介
 - a. グループワーク
 - b. 事例紹介
3. まとめ

アイスブレイク(1)



自己紹介活動(自分が大好きなこと)

- 1) 「大好きマップ」の8項目について線と丸を広げていく。
- 2) <1回目>グループ内で「名前・所属・住居地」に加えて大好きマップに基づいて話す。
- 3) メンバーの話を聞いて新たに浮かんだことを書き加える。
- 4) <2回目>1回目のメンバーの話を踏まえてさらに話す。

技法23. ワード・ウェブ(1)



手順

- 1) 基本的なウェブの作成法(→、結びつきの線、中心と下部、等)について学生と確認する。
- 2) グループに分け、活動時間を提示する。
- 3) 中心概念を提示する。
- 4) 各グループでブレインストーミングを行い、中心概念を表す語句・それを支持する語句を思い起こす(カード化してもよい)
- 5) 中心概念を出発点とし、関係する語句を配置する。
- 6) 関係する語句の関係性を考え、それを線や矢印で示させる。
- 7) 描いている最中に浮かんだ新しい概念や関係も適宜加えさせる。

技法23. ワード・ウェブ(2)



概要

関係したアイデアのリストを作り、それらを図解し、結びつきを示す線や矢印を書き、関係性を見出す。

活用

既習項目の体系化、アイデアの視覚的まとめ

注意点

記入項目の制限と学生の想像力のバランス

アイスブレイク(2)



- 1) <個々で>先ほどのメンバーの好きなことで印象に残っていることを思いつくまま付箋に記入する。
- 2) <グループで>書かれた付箋を全て提示し、関連したもの同士を集める。
- 3) まとまりごとにカテゴリー名をつける。
- 4) カテゴリー名を手がかりに「グループ名」を命名する。

技法19. アフィニティー・グルーピング(1)



手順

- 1) 学生をグループに分け、各自に付箋を一定数配布する。
- 2) 検討する問題と活動時間を伝える。
- 3) <個々>静かにアイデアを考え、付箋一枚に1アイデアを記入させる。
- 4) <グループ>付箋を全て集めて広げ、関連したアイデア同士を寄せ集める。
- 5) 寄せ集めたまとまりごとに、内容を最もよく表すカテゴリー名をつける。

技法19. アフィニティー・グルーピング(2)



目的・概要: アイデアを考え、共通のテーマを見つけ、アイデアを並べ替え、まとめる。

活用

カテゴリー化による区別・分類方法の理解、データのコード化、研究テーマの決定

注意点

準備時間(付箋記入時間)を十分にとる。

1枚1語句。

グループワーク(1)



<グループ>

配布されたキーワードを並べ替え、さらに適宜矢印や囲みも入れて一つの流れを完成させる。

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴



学習活動

深いアプローチ

浅いアプローチ

- ・振り返る
- ・離れた問題に適用する
- ・仮説を立てる
- ・原理と関連づける
- ・身近な問題に適用する
- ・説明する
- ・論じる
- ・関連付ける
- ・中心となる考えを理解する
- ・記述する
- ・言い換える
- ・文章を理解する
- ・認める/名前を挙げる
- ・記憶する

溝上(2015)より、原典: Biggs & Tang (2011)

技法22. シークエンス・チェイン(1)



手順

- 1) 学生をグループに分け、活動時間を伝える。
- 2) ランダムに配置された項目リストを提示する(又はリスト項目を学生に考えさせる)
- 3) グループ内で協力し合い、項目リストを並べ替えて一連の連鎖を作らせる。
- 4) 各グループの連鎖を提示し、それらを手がかりに自グループの連鎖を再検討する。

技法22. シークエンス・チェーン(2)



目的・概要

一連の出来事や行為、役割や決定を分析し、図解する。

活用

歴史的出来事の連動性、小説内の話の連動性や影響など

注意点

情報連鎖関係の有無の事前確認

グループワーク(2)



- 1) <個々>ワークシート[1]上の「技法・戦略」をヒントに、下の「学習形態」「主導形態」の当てはまると思うところに○を入れる。
- 2) <グループ>メンバーの考えを共有し、グループとしての答えを決める。

技法21. チーム・マトリックス(1)



手順

- 1) 学生をペアにし、マトリックス図を配布する。
- 2) ペアで話し合いながら、マトリックスを完成させる。
- 3) クラス全体で話し合いながら、正答のマトリックスと比較させる。

技法21. チーム・マトリックス(2)



目的・概要

定義に用いる重要な特徴の有無をチャートで確認して、類似した概念を区別する。

活用

関連する概念同士の区別・明確な基準理解

注意点

マトリックスを学生に作成させることもできる。単純な2分法的判断で答えられない項目に

グループワーク(3)



- 1) <個々>ワークシート[2]の4区分に当てはまると思う学生の学習活動を書き入れる。
- 2) <グループ>メンバーの書いた内容を共有し合い、新たなものを書き加える。

技法20. グループ・グリッド(1)



手順

- 1) 学生をグループに分け、空白のグリッド(マス目)の入った用紙を配布する。
- 2) ランダムに並べた情報項目リストを提示する。
- 3) グリッドの空白部を埋めるように指示する。(分類はグループ内で話し合いの上合意させる)
- 4) 完成したグリッドを提示・提出(→評価)

技法20. グループ・グリッド(2)



目的・概要

ひとまとまりの情報が与えられ、カテゴリーに従って、グリッドの空いたセルに挿入する。

活用

- ・空白が埋まったグリッドからカテゴリー名を決めさせてもよい。
- ・レポート・プレゼン等の準備活動

注意点

単純な穴埋めに終始しないこと

実践例(1)



講座名: Communicative English III

- ・英語プレゼンテーション
- ・グループ・プレゼンテーション
- ・「学生が作る海外向けTV番組”Introducing Japan”」
- ・学生をグループに分け、番組のトピック・放送する国を決定させる。必ず放送する国についての比較情報加えるよう指示

実践例(2)



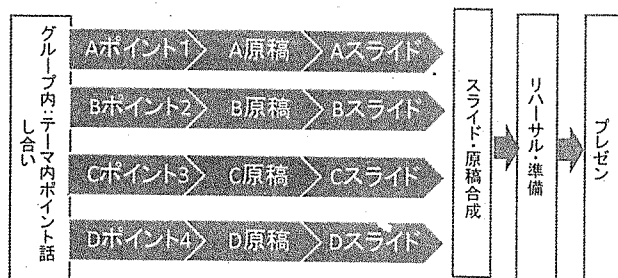
昨年度:

グループ内で決定したトピックに関連する下位カテゴリーを3~4挙げ、各自の分担を決める。
→個々で分担部分の原稿・スライドを作成
→合成

実践例(3)



昨年度



実践例(4)



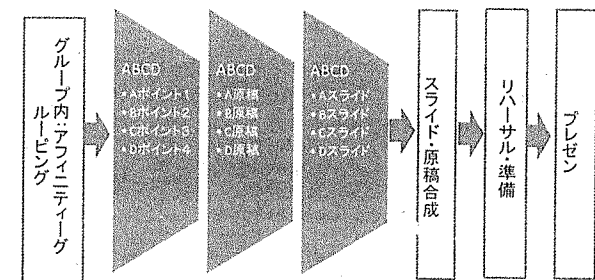
今年度:

グループ内で、決定したトピックから連想する語句を思いつくまま付箋にどんどん記入させる。
→大判用紙の上にトピック名を記載し、その下に付箋を関連したものを近づけながら貼り付ける中で話し合い、3~4グループ化させる。
→分担部分の原稿・スライドを作成

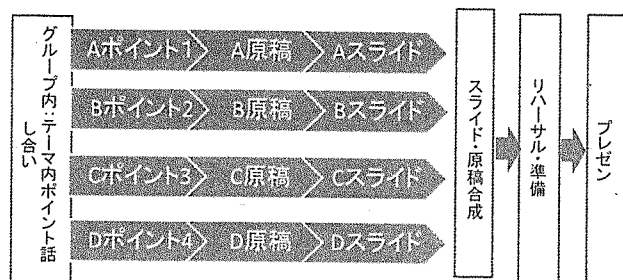
実践例(5)



今年度



昨年度



実践例(6)

変化

- ・原稿を考える時点で、自分だけでなくメンバーの意見を取り入れることになるため、原稿・スライド段階でも話し合う場面が見られた。
- ・大判用紙を原稿作成・スライド作成の段階でも見ながら作成する学生が比較的多かった。
- ・プレゼンでもチームワークを感じる場面が増えた。
- ・内容も前年より充実したものとなった。

参考文献

- Biggs, J. & Tang, C. (2011). Teaching for quality learning at university. (4th ed.) Berkshire: The Society for Research into Higher Education & Open University Press.
- エリザベス=バークレイ, パトリシア=クロス, クレア=メジャー(2009).『協同学習の技法: 大学教育の手引き』(安永悟監訳). ナカニシヤ出版.
- 永田豊志(2014).『頭がよくなる「図解思考」の技術』KADOKAWA.
- 溝上慎一(2015).「アクティブラーニング論から見たディープ・アクティブラーニング」. 松下佳代『ディープ・アクティブラーニング』(pp.31-50). 勁草書房.
- 溝上慎一(2014).『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂.

高等教育の大衆化
学生の多様化
目的意識の希薄化

講義一辺倒授業

「教える」

知識伝達

アクティブラーニング

「学ぶ」

主体的学び 能動的学習経験
対話的学び 肯定的相互依存
深い学び 省察的学習経験

アクティブラーニング型授業のさまざまな技法と戦略

タイプ	タイプ0	タイプ2	タイプ3	タイプ4
学習の形態	受動的学習	能動的学習	能動的学習	能動的学習
主導形態	教員主導型	教員主導・ 講義中心型	教員主導・ 講義中心型	学生主導型
AI型としての 戦略性	—	低	中～高	高
技法・戦略	・話し方の工夫 (声の大きさ・ス ピード) ・板書の工夫 ・パワーポイント のスライドの見 せ方 ・実物・モデル の提示	・コメント・シー ツ/ミニッツ・ ペーパー ・小レポート/小 テスト ・予習・宿題等 ・クリッカー ・授業通信	・ディスカッショ ン ・プレゼンテー ション ・体験学習	・協同/協調学習 ・ピア・インストラ クション ・問題解決学習 ・プロジェクト型 学習 ・発見学習 ・フィールドワー ク、など

溝上(2014)より抜粋

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動

深いアプローチ

浅いアプローチ

- ・振り返る
- ・離れた問題に適用する
- ・仮説を立てる
- ・原理と関連づける
- ・身近な問題に適用する
- ・説明する
- ・論じる
- ・関連付ける
- ・中心となる考えを理解する
- ・記述する
- ・言い換える
- ・文章を理解する
- ・認める/名前を挙げる
- ・記憶する

溝上(2015), 原典: Biggs & Tang (2011)

アクティブラーニング型授業における学生の学習活動

個人での活動

教室外活動

教室内活動

集団での活動

溝上(2014)より抜粋